

伊達の認知症支援ボランティア組織



「あい^{いろ}彩の会」について



あい彩の会 会員
池田 武史

2026年2月15日

新しい認知症観

「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人ひとりが個人としてできることや、やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという考え方」

わたしたちの「あい彩の会」の活動は、
こういうことを目指すことの小さな一歩
手探りで、できることから
始めています



伊達といえば藍染の藍
相手を思えるLOVEの愛
認知症になっても私は
わたしの“I”

チームオレンジだて

あい^{いろ}彩の会

人それぞれが
いろどり豊かな
人生に

～活動の紹介とこれからについて～



伊達市健康福祉部高齢福祉課
高齢者福祉係

チームオレンジだて あい^{いろ}彩の会とは



- 伊達市の認知症サポーター養成講座を受講した市民のうち、
認知症になっても暮らしやすいまちづくりのために
「自分にできること」をしてみたい方が集い、
R6年（2024）5月 スタート
・ R7年（2025）12月末現在 32名在籍 ボランティアの団体
- 企画・運営
 - ・現在のところは伊達市＆地域包括支援センターが主動。
 - ・会員サポーターの意見を取り入れた活動を
市＆包括が企画し、サポーターが手上げ方式で参加。



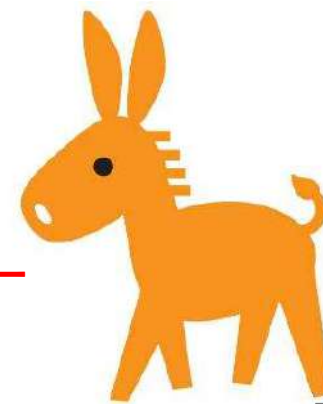
1. 活動の紹介

どれもお試しのつもりでスタート。どの取り組みもまだまだ模索中。

★は本人参画を期待している取組。

- ★1) 個別サポート
- ★2) 認知症カフェでのサポート
- 3) 認知症家族介護者のつどい「つくしんぼう」でのサポート
- 4) 認知症サポーター養成講座での朗読劇
- ★5) 世界アルツハイマー月間における展示の協力
- 6) あい彩の会のつどい
- ★7) デイサービス訪問（試行）

マスコットキャラクター
オレンジ ロバ隊長



★1) 個別サポート

「サポート」という言葉だと「支援する側・される側」の関係性
が感じられる…
いずれはこの呼び方も変えたい…

- 認知症のある方本人の「やりたいこと」とサポーターの「できること」をマッチング
- 主に認知症のある方本人のご自宅をサポーターが訪問し、「本人と一緒に」本人のやりたいことをしている
(おしゃべり、お茶飲み、パズル、トランプ、工作など)
- サポーターの気づきで、換気、水分摂取の促し、昼食を一緒に食べるといったことも

<活動開始までの流れ>

- ①本人・家族・ケアマネさんを通じて市・包括に参加希望の申請
- ②包括職員・ケアマネさん・サポーターで打合せ
- ③担当ケアマネさん（いない場合は包括）とサポーターが本人宅を訪問し、本人・家族と顔合わせ
- ④本人とサポーターの活動スタート☆



個別サポートの事例紹介

包括紹介

●101歳のAさん 女性（一人暮らし）

- ・市内に就労中の娘さんがいる
- ・デイサービスは体力的に大変になり卒業
- ・パズルやトランプがお好き

【サポーターさんより】

- ・週1回、サポーター2名が交代で訪問。
- ・とても受け入れが良く、一緒にパズルなどをして穏やかに楽しく過ごされている。
- ・オセロをやったことないと言うが、やっているうちに思い出してきた。お疲れかと思ったが、もっとやりたいと。
- ・娘さんのサポートもあるが、とてもしっかりされていて見習うべきところがある。



ケアマネさん紹介

●88歳のBさん 女性（一人暮らし）

- ・週3回デイサービス利用
- ・夜は市内で就労の娘さん宅で過ごされる
- ・食事が用意されていても食べないことがある



【サポーターさんより】

- ・週2回、サポーター2名が交代で訪問。
- ・毎度お湯を沸かしておいてくれ、コーヒーを淹れてくれようとする。淹れ方がわからなくなることがあるが、手順を伝えることで毎回なんとか続いている。
- ・最近、「遠いところからありがとう」と出迎えてくれ、帰りも「もう帰る時間？」と言ってくれるようになった。少しはお役に立てているのかなと思える。
- ・それまで家族にも口数が少なかったが、サポーターとの時間を家族に楽しそうに話すようになった。
- ・娘さんがノートを用意してくれ、家族やサポーター2人との連絡事項を記入して共有している。

個別サポートの事例紹介

ケアマネさん 紹介

- 82歳のCさん 女性
(就労中の息子さんと同居)

- ・ 就労されている息子さんと2人暮らし
- ・ 人のなかに入っていくのは好きではない
- ・ ヘルパーさんによる入浴介助を利用
- ・ **息子さんの不在時は、ソファに座り眠っていてほとんど動かない⇒食欲も出ない**

【サポーターさんより】

- ・ 月3回、サポーター1名が訪問
- ・ 日中のお話し相手、家の中で一緒に体を動かすなどしていた。
- ・ 暑い日には部屋の換気や水分摂取を促したり、昼食を持参し一緒に食べませんかと誘って食事を促したりした。
- ・ **日中の活動のメリハリ**となっていた。
- ・ 施設へ入所することとなり利用終了。



ケアマネさん紹介

- 69歳のDさん 女性
(子育て中の息子さん一家と同居)

- ・ 認知症の診断を受け、他市から転入し同居へ
- ・ 日中は一人で家で過ごされている
- ・ **デイでは台所仕事など役割を持っている**
- ・ お嫁さんとの関係性があまり良好でない様子

【サポーターさんより】

- ・ 週1回、年代が近く、**職歴が似ているサポーター2名**が交代で訪問。
- ・ 1時間いて楽しかったと思ってもらえるように関わっている。
- ・ **仕事をしていた頃の話**や息子さんの小さい頃の話、お孫さんの話などおしゃべりしている。
- ・ 楽しみに待っていてくれている様子。



★2) 認知症カフェでのサポート

- 運営の手伝い（会場準備や片付け、お茶を運ぶなど）
- 気楽に、リラックスして参加できるような関わり
- カフェのテーマなどの企画 など



現在、市内にはカフェ4カ所と介護者のつどいが1つ。
今はどれも支援者やサポーターが企画運営している状況。これからは認知症のある方本人のやりたいことを企画化したり、一緒に運営できるともっと楽しくなりそう！

3) 家族介護者のつどい 「つくしんぼう」でのサポート

- 認知症の方を介護するご家族のお話をじっくり聴く
- ときには自分の経験も伝えたり、家族の話から学んだり、サポーターさん自身がしてきた介護を振り返る機会にも。





高校生ボランティア部局も参加



小学生と対局！



認知症カフェの様子（どなたでもカフェ）



ご本人が点茶を振る舞う



認知症カフェ の様子 (どなたでもカフェ)



4) 認知症サポーター養成講座での朗読劇



- パワーポイントのイラストに合わせ、登場人物の台詞を熱演！
- 受講者に楽しみながら関わり方を学んでもらっている。
- R7年度は市内3カ所の小学校のサポーター養成講座でも実施

今のところシナリオは2つ。
「財布がない」と「ご飯はまだかな？」

「財布がない」のせりふ
お嫁さん「わたし、おばあちゃんの財布なんか持っていませんよ！」 **熱演**

★5) アルツハイマー月間展示への協力

- 認知症の正しい理解の普及啓発のため市が実施
- 図書館、食育センターレストラン、イオン伊達店でパネル展示
- ポスターや冊子などの掲示物は市と包括で用意
- 装飾物の制作や展示作業➡サポーターが協力

【市・包括・サポーターさんの思い】

- 展示する作品や装飾物の制作など、認知症のあるご本人でやりたい方がいたら協力してもらえるといいな…

➡ご本人の役割意識ややりがいにつながるかも…？



★私の母は和裁が好き
日本人形（ふみちゃん）の小さな着物
施設で雑巾作り



6) あい彩の会のつどい

- 2 か月に 1 回程度開催
- 今後の活動についてのアイデア出し、活動の振り返り、情報共有など
- サポーターさん発案で手芸の会も不定期で開催

NHKの番組で見た「認知症バル」を
伊達でもやってみたい！！
プロジェクト立ち上げへ。

…でもこれって、「私たちが」やりたいことでは…？

➡「本人発信」の視点に立ち返ろうと、プロジェクトは白紙に。



★7) デイサービス訪問（試行）



●きっかけ：本人発信の取り組みができていない…

→まず本人と会って話をしてみよう！

・好きなこと、得意なこと、やってみたいことなど聞いてみよう！

●4か所のデイサービスをサポーターと市・包括職員数名で訪問
しかし、初対面の私たちが聞きたい話を引き出すのは難しかった…

→信頼関係が重要なのだと再認識

でも、職員・利用者みなさんは快く受け入れてくださったので、
訪問して交流する取り組みとして継続してみようということに。

★昭和の歌謡　　紙飛行機、紙相撲、糸電話（？）

あい彩の会が目指すところ



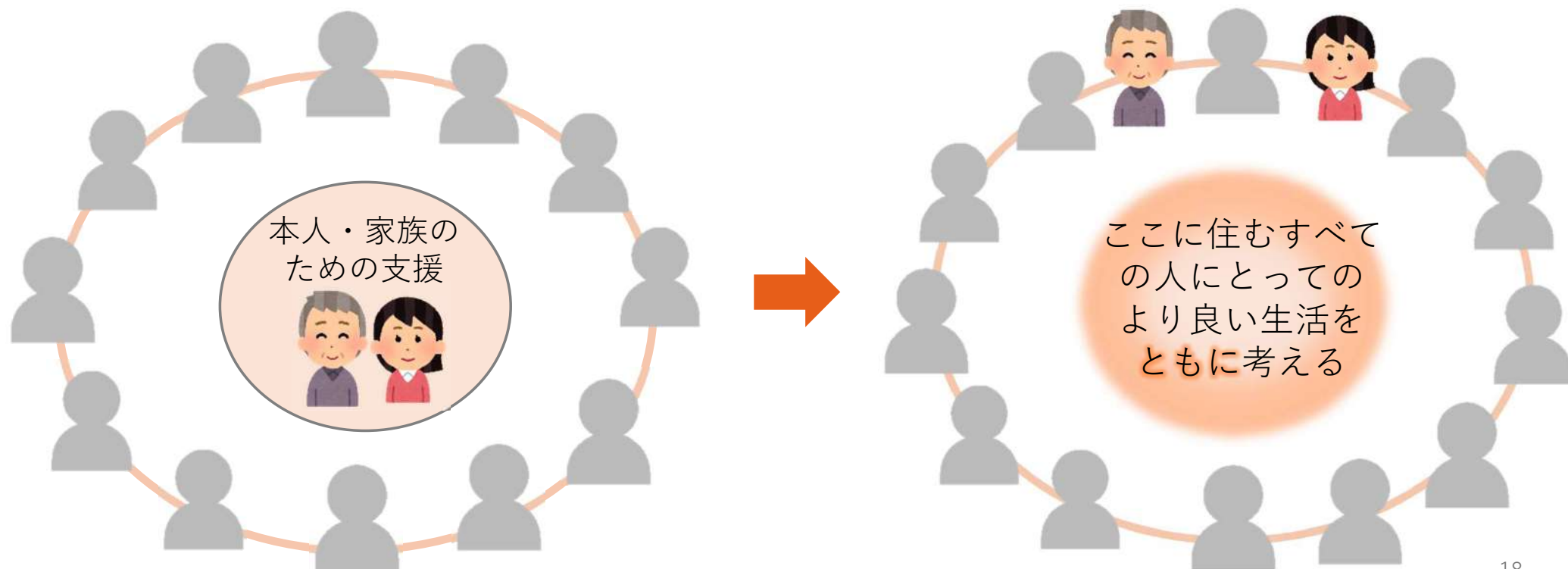
- 認知症のあるその人のことを丸ごと受け入れ、お互いの好きなこと、得意なこと、やりたいことに一緒に取り組む仲間
※一方的にお手伝いをする「生活支援」ではない
- 認知症のある本人も周りの人も、関わり合うことで、お互いの生活に彩りを添えられるような取り組み
- その人がその人らしくあるために、生き生きと、持てる力を発揮することを手伝う。本人も一緒にそれがかなう環境づくりに参画する。



チームオレンジ活動での課題

まだまだ、「認知症の人のための支援」に留まっている

→ 認知症の人と一緒に「みんなのための」地域づくりをしたい



チームオレンジ活動での課題



- 本人発信、本人参画の取り組みへとシフトしていくために
 - 本人の声をどう集めるか
本人の声シート、本人ミーティング、アンケート調査、etc....？
 - 本人とどうつながるか
医療機関、居宅、包括、etc....？
 - 認知症の方ご本人の家族、地域の人々、行政各部署、支援者や専門職等に 「新しい認知症観」をいかに理解してもらうか
- ★ 「人はみな人生のリュックサックを背負っている」
「リュックサックの中身を聞くと、その人を知る」
室蘭傾聴ボランティアの会 小林さんの言葉

有珠の森では春になると動物・小鳥たちのパーティが開かれている・・・



森のパーティー

「カント オロワ ヤク サク
ノ アランケプ シネプ カ イ
サム」

「天から役目なしに降ろされた物は
ひとつもない」という意味のアイ
ヌ語

意識すると、「天の神様が作った
自然のものは、みんな何らかの役
に立つものばかりなのですよ」
みんなでこの森の生き物を守って
あげて、“未来からのあずかりも
の”を現在のわたしたちは大切にし
ようね！

認知症の支援ということも、
世代間のお互い様の協力システム
では、ないでしょうか！

おわりに 🍁🍁

- チームオレンジ「あい彩の会」の取り組みは始まったばかりで、活動はまだまだ模索中です。
- 市民一人ひとりが、認知症の方が「自分らしく暮らす」、フォーマルでもインフォーマルでも「社会参加」するにはどうしたらいいか、ワクワク楽しいアイデアを出し合えるといいですね。

先に認知症になった方の思いや考えを受け取りながら、これから認知症になるかもしれない私たちの、暮らしやすい伊達のまちをみんなでつくっていきましょう♪
この町の 世代間 バトンタッチ 協力システム

